



東栄町花祭会館

700年の昔から、夜を徹して行われる花祭りは、地割り入魂、五穀豊穫、無病息災を祈る神事芸能であり、湯の煮えたぎる釜のまわりを踊り舞う農民の娯楽である。花の舞、四ツ舞等の数々の舞と、山見鬼、榊鬼、茂吉鬼をはじめ赤鬼、青鬼らが太鼓と笛のリズムにのって、乱舞する光景は、さながら神人融合の境地である。長い伝統ある花祭りを保存伝承するため建設されたのが「花祭会館」である。多くの貴重な展示品があり、舞庭には、湯ばやしなど、10体の人形が、かざられ花祭りの雰囲気を醸しだしている。

(東栄町花祭会館 遠山昭人)

目 次

● 平成 2 年度愛知県博物館等職員研修会報告	2
● 東海三県博物館協会交流研修会報告	3
● 東海財団贈呈式	5
● 文化財写真研修を終えて	5
● 新規加盟館紹介	6
● お知らせ	8

平成2年度

愛知県博物館等職員研修会報告

平成2年度愛知県博物館等職員研修会が、サンパーク犬山（国民年金福祉会館）を会場として平成2年9月6日（木）～7日（金）にかけて開催されましたので、その概要をご報告いたします。

日程 第1日目 （会場 サンパーク犬山）

13:00～13:40 受付・あいさつ

愛知県教育委員会文化財課課長補佐吉村繁氏、愛知県博物館協会会长亀井誠治氏、犬山市教育委員会教育長鈴木光雄氏

13:40～17:00 研究協議（参加人員55名）

テーマ 「博物館における資料収集と研究」

上記議題により、博物館明治村学芸員中野裕子氏、豊橋市自然史博物館学芸員家田健吾氏、ヨコタ博物館館長横田正臣氏、古川美術館学芸員杉浦希久子氏の4名による事例発表があり、参加者による質疑応答が行われた。

事例発表の概要

◎博物館明治村学芸員中野裕子氏

〔明治村における資料収集と調査研究について〕

1. 博物館明治村の成立

戦後の産業高度成長によって生じた公私開発事業により、取り壊されてゆく古い明治の建造物を保存する目的で昭和37年に財団法人を設立して、明治村の建設と資料の収集が並行して進められ、昭和40年3月18日に開村公開された。

2. 建造物資料

開村当時から、生き残った破壊寸前の様々な建物を収集移築し、その調査研究に当っている。その物がもつ由緒来歴を知るための情報には不明なものが多く、移築報告書の作成が望まれ一部を除き遅れているのが現状である。

3. 建造物以外の資料

明治村は「小博物館」の集合体である。明治時代の資料を中心に収集しているが未整理のものを含めて約3万点を所蔵する。「明治」を知るには多岐に渡って資料を収集することが必要であり、今進めている郷土玩具の収集についても調査をしていると明治の風俗習慣等がみえてくる。

◎熱田神宮宝物館大原和生氏、トヨタ博物館鈴木忠道氏から質問があった。

◎豊橋市自然史博物館学芸員家田健吾氏

〔博物館における資料収集と研究〕



1. 博物館設立・運営理念

昭和62年開館。一般市民の利用に供し、郷土を含めた自然史資料に関する収集、調査研究、保管、展示を行い文化の向上につとめる。

2. 本計画の基本方針

公立博物館としての機能（資料収集、保存、研究、展示、教育普及）を十分に発揮できる文化施設とする。等々

3. 資料収集

収蔵資料は約7万点。このうち、購入した化石資料が主で、今後は郷土を中心とした資料収集をめざし、調査研究は収集した資料を基に進めていきたい。

◎知立市歴史民俗資料館鈴木純子氏、日本モンキーセンター大竹勝氏及び三戸幸久氏から質問があった。

◎ヨコタ博物館館長横田正臣氏

〔博物館における資料収集と研究〕

1. ヨコタ博物館の設立

豊川市にあるヨコタ南方美術館の姉妹館として昭和63年に開館し、研修者の宿泊施設も備えている。

2. 資料収集

収蔵資料は、焼物約7千点、その他が約3千5百点から成り、現在4ヶ所に分けて収蔵している。約26年をかけてタイ、カンボジア、ラオス、ビルマ等の発掘現場まで行って資料を収集し、この間、収集した資料について勉強を並行して行った。収集資料のうちで寄贈されたものは1点もなく全て自己資金で購入したものである。今後も体力の続く限り収集を続けたい。なお、展示替えについては気の向いた時にしているが、資料整理については今の処考えていない。

◎日本モンキーセンター三戸幸久氏、熱田神宮宝物館大原和生氏から質問があった。

◎古川美術館学芸員杉浦希久子氏

〔古川美術館におけるパソコンの活用〕

1. 美術館の設立

昭和62年財団法人の設立。

2. パソコンと資料整理

(機種) FUJI XERO6060ワークステーション

収蔵資料は、約2千6百点。パソコンに基本データを入力し、このデータを(①所蔵品台帳、②所蔵品アルバム、③展覧会チラシ、④展覧会作品キャプション、⑤資料カード)①~⑤それぞれの書式に合わせて作成する。その他資料カード等につきスライドを使用して説明があり、問題点として、コンピューターを導入したからといって全てが楽にはならない。

○昭和美術館服部昭義氏、ヨコタ博物館横田正臣氏、日本モンキーセンター三戸幸久氏、トヨタ博物館鈴木忠道氏から質問があった。

研究協議終了後、研修会第2部(懇親会)に移り、熱心な討論や情報交換を行い親睦が深められた。

日程 第2日目 (見学会)

2日目の見学会は、日本モンキーセンター、犬山市文化史料館、国宝犬山城、博物館明治村を見学し、2日間にわたる研修会は、無事終了した。



最後になりましたが、本研修会においてお世話になりました方々に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。
(実行委員 博物館明治村 佐野歎記)

東海三県博物館協会交流研修会報告

大府市歴史民俗資料館 小島美智子

平成2年10月4日(木)から同5日(金)の2日間にわたり第15回東海三県博物館協会交流研修会が、愛知県知多郡奥田にある知多美浜簡易保険保養センターを会場として開催されました。折りしも台風シーズンの最中であり天候には若干の不安もありましたが、50館72名という多数の参加者に恵まれましたことを感謝

しつつ、実行委員の1人として今回の交流研修会の概要を御報告致します。

日程 第1日目

13:00~13:30 受付

13:30~13:40 挨拶

13:40~14:40 基調講演 福岡猛志氏
(日本福祉大学教授)

14:40~17:00 研究協議
「観光地の中での博物館
—観光施設化の功罪—」

第2日目 (見学会)

9:00~ 宿舎出発

9:30~10:45 INAX窯のある広場資料館
やきもの散歩道(常滑市)

11:15~12:15 国盛酒の文化館(半田市)
昼食終了後 解散

近年、各地においてリゾート開発ということが、さかんに行われる様になり、今回の会場となりました知多郡も、まさに観光地になりつつあるということが言えます。しかしながら、東海三県の中には、古くから観光地という名称を持った地域がいくつかある訳で、今回の研究協議のテーマには、「観光地の中での博物館—観光施設化の功罪—」を設定しました。

研究協議に入る前に、地元である日本福祉大学教授福岡猛志氏に、テーマに基づいた講演をお願いして、いくつかの問題提議をして頂きました。

講演では、「私達が通常に感じている『観光』とは、一体何なのだろうか?」という事から始まりました。観光とは、即ち「日常性(場所・仕事・生活)からの一時的離脱を伴うレクリエーション活動」ではないだろうか。そして、その中にある博物館には、大きく分けると3つの側面があるのではないだろうか。

①観光ルートの一部としての博物館

②Visitor Centerとしての博物館

③観光の主対象としての博物館

上記の側面を、それぞれ具体的に話された後で、「博物館とは、まず第一に遊びに行く所である。」という点から、「一般的に博物館に関心のない人々が、最初に博物館に触れる人口は、観光地の博物館にある。」又、「あらゆる博物館は、一過性入館者の対象である。」という点から、「ひとたび私達が観光に出て行けば、その地元においてどんなに密着している博物館であっても、観光対象としてそこに入る。」という結論が出ました。これは、日頃、観光地でもなく、観光の主対象となるような目玉展示を持つこともない小規模資料館に

居る私にとって、特に考えさせられました。一口に博物館といつても、その内様は実に様々でありそれがかかる課題もはかり知れません。しかし、博物館世界全体という視点に立ってみた時、一過性の入館者（観光客）にも楽しめて、地元の人々の向上的知識欲にも充分答えるだけの調査研究がなされているという事は、理想ではあっても、自分の所ではとてもできない。と、はじめからあきらめていなかっただろうか？と、自問自答するばかりです。確かに、「建て物を建てさえすればそれでいい」とか、「入館者数さえ増えれば、内容はどうでもいい」といった考え方がある事は事実ですが、学芸員の方にも「わからない方が悪い。わかる人にはわかる。」といった片意地的な所がないだろうかと反省してみる事、「子供と年寄にもわかりやすい説明」という事を、もっと深く探ってみる必要があると思いました。

福岡教授が言われた『博物館とは、元来、人を引きつける力を持っているものであり、人が集まることが波及効果として周りの経済を活性化させる。又、新しく博物館ができることで、周りの環境整備がなされ、地元の生活が快適になる。』ということを、これからは常に念頭に置く必要があるのではないか。と改めて考えさせられました。

講演終了後の研究協議では、テーマに基づいた事例発表が各県1名づつで行われました。

- ・三重県 御木本真珠島 松月清郎氏
- ・岐阜県 飛騨民俗村 小山 司氏
- ・愛知県 名古屋海洋博物館 平澤康男氏



御木本真珠島・松月氏の発表は、まず真珠島の設立過程からはじまり、現在、真珠島が鳥羽という観光地に位置することで持っている特性（課題）と、それに対する対応策が、例えば対面解説であるとか、ガイドツアーという様に具体的に話されました。又、用意されたレジィメの中には、観光地型博物館のチェックリ

ストが示されており、地方の資料館の目でそれを見た場合には、不思議に思う事柄でも、案外、自分が観光客として見た場合には、自然に思っている事が多いと気づかされました。まさに、観光地とは、非日常の世界であるという実例であったと思いました。

飛騨民俗村・小山氏の発表では、岐阜県内における観光動向が地区別にグラフによって示された後で、中でも飛騨地区の特色は、比較的若い（20～30代）客層が中心で、観光目的の半分までもが、参加活動型観光と温泉保養によって占められているということでした。飛騨地区の中でも、特に高山市には博物館が集中しており、全体の45%を占めている点も興味を引きました。その中にある民俗村は、生活の中心であった火と水の内の火（まきを燃やす）を残すことで、飛騨のイメージ作りを行ない、Visitor Centerとして、地域経済の基地となっているという事でした。



名古屋海洋博物館・平澤氏の発表では、名古屋港が地域的観光地ではなく点的観光地であることと、アクセス・ルートが比較的単純であることの2点を企画に生かしているという話がありました。点的観光地と言えば、地方の資料館も、そのほとんどが公園等に隣接している条件から点的観光地と呼べるのではないかと思うのです。季節毎に行われる公園等周辺のイベントによって、館の入館者数に差が生じるのも注目すべき点ではないでしょうか。又、同じ見学者であっても、来館する際の所属によって態度が違うという指摘は、振り返って館の受け入れ方、対応にも問題がなかったかということだと思いました。

2日目の見学会は、曇天で湿度が高かったものの、雨に降られる事もなく終了することができました。やきもの散歩道で誘導して頂いた知多地区の学芸員の方々には、この紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。

以上乱雑な文章となり、第15回東海三県博物館協会交流研修会の報告には程遠い感想文になってしましましたことを御容赦下さい。

東海財団贈呈式

東海財団からガイドマップを受贈

10月17日午前11時、名古屋市中区の東海銀行本店5階で、ガイドマップ「あいちの博物館みてあるき」5万部を財団法人東海財団から贈呈を受けました。これに対し当協会から東海財団へ感謝状を贈呈しました。

このガイドマップは、役員館や愛知県及び名古屋市の関係機関で、一般の方に配布していただくように送付いたしました。加盟各館及び報道機関、市町村教育委員会、他県博物館協会、全国博物館大会等にも活用していただくように配布しました。さらに、事務局から、175円の切手を同封して申し込んだ希望者へ郵送でも配布しています。

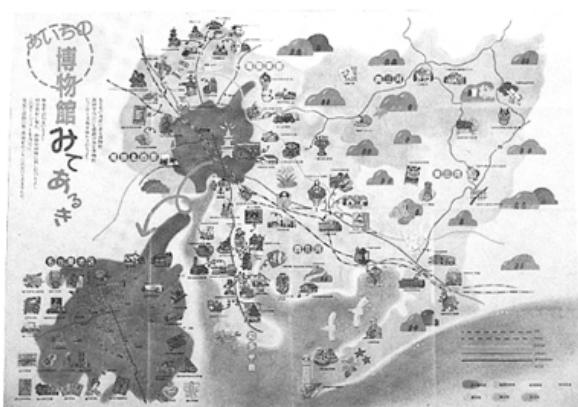
このガイドマップは、東海財団が発行し、当協会が編集を担当したものです。当協会に平成2年9月現在加盟している100館（他に分館1）をすべて掲載いたしました。体裁は、B2判（折り畳んでB6判）の2ページ立て。第1面で、カラーのイラスト地図に加盟館のおおよその位置を図示し、第2面で、各館の利用案内情報を掲載しました。

最後になりましたが、紙面から、財団法人東海財団へ、今回の御協力に感謝いたします。

（文責・愛知県博物館協会事務局 原 誠）



△東海財団の佐竹常務理事（左）から亀井愛博協会会長（右）へ目録が手渡される



第1面



第2面

文化財写真研修を終えて

名古屋市博物館 写真技師 杉浦秀昭

平成2年11月20日～22日の3日間、名古屋市博物館において、愛知県博物館協会主催の文化財写真研修を行った。参加者は、3日間計28名であった。参加者内訳は、県内の公私立資料館・博物館・美術館・教委等、多岐にわたった。主催者・受講者とも初めてのことでの多少のとまどいもあったが、受講者の熱意に押されながらの3日間であった。

研修内容としては、3日間通しての段階的カリキュラムを組んでの方法ではなく、1日10人程度で、3日間毎日同じプログラムで進めた。その際のクラス編成は、初心者、熟達者の混合クラスで、無作為に行った。午前の部で写真の基礎の概略、午後の部では実際の資料撮影に積極的に参加していただき、撮影中に生まれる問題点を中心に、また個々の職場での撮影体験からの質問を軸に進める方法をとった。

基礎の概略としては、

- ①カメラの種類
- ②フィルムの種類とその用途
- ③露出決定の諸要素
- ④モノクロフィルムの現像とそのメカニズム
- ⑤引伸しの実際

以上5項目を中心に行った。

撮影資料として、

- ①文書・和本
- ②軸装絵画
- ③土器

それぞれの資料について、平面性の保持・均一に光をあてる方法・基本的照明法などについて、実際にポラロイドを引き、その場で確認し、また参加者にも積極的に撮影していただいた。さらに、各自の撮影したポラロイドを基に問題点を指摘した。

以上の様に研修を行ったわけであるが、今回の研修目的である、文化財撮影における初步的写真技術の向上（普及？）に十分機能し得たかに関して当方の反省点を上げてみたい。

- 初歩的な写真技術といえども、1日で全部を終わらせるには無理があったのではないか。当方として、初めての経験であり、また、1日で完結させたいとのあせりも合わせてプログラム進行を早めたため、一部受講者に不満を残したと思う。
- レベル別クラス編成にすべきではなかったか。この件に関しては、全くの初心者を除けば基準に問題が残るが、カリキュラム作成上の余裕やそれぞれに見合ったプログラム進行の出来る利点を考えれば、レベル別に踏み切ってもよかったかと思う。

最後に

写真技術の向上に特効薬はありません。日々の努力の積み重ねによって得られるものです。文化財写真の撮影を片手間の仕事とせず、一つの完結した仕事としてとらえ、後世に残せる写真を作っていただきたいものです。でき得れば、再度、研修機会を作っていただき、前記反省点を踏まえた上で新たな写真研修の開催を熱望します。



新規加盟館紹介

平成元年度に当協会へ加盟されました8館の内、前号掲載した外残り3館の概要をここに紹介します。

衣の民俗館

所在地 〒465 名古屋市名東区大針1-204

電話 (052) 701-7568

交通 JR名古屋駅から約45分、地下鉄東山線本郷(20分)下車、市バス猪高緑地行@極楽東(8分)下車、徒歩3分、名東高校東。駐車場2台分有。

沿革 衣文化に関する民俗資料の調査研究・資料収集・展示・情報の提供を目的として、平成元年9月15日に開館した。現在、年4~5回の特別展示の他、毎月日本風俗史学会中部支部例会を開催、また衣文化に関する教育普及活動を目的とした「衣の民俗館友の会」を組織し、1~2回の研究会・見学会等を実施し、人間交流・生涯教育の場を作ることを意図した。

施設 敷地365.54m²

鉄骨2階建、延面積355.68m²

展示室83.43m²

収蔵庫、図書室、研究室103.48m²

その他168.77m²

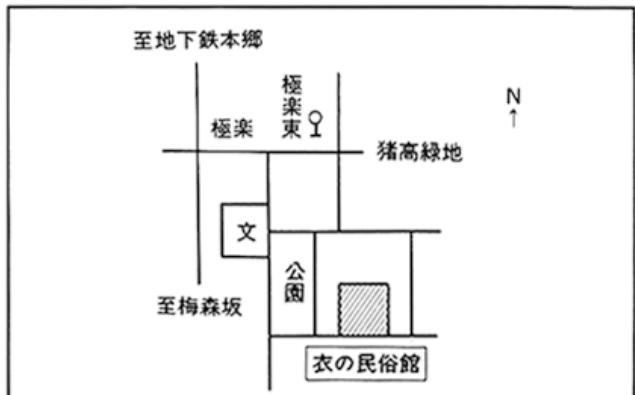
開館 年間5回（1回1~2週間）特別展示期間・毎月第1土曜日・その他随時開館

入館料 無料

特色 衣文化とともに食・住文化について会員の研究報告会を行い、その成果を展示・試食・映像・写真その他で紹介し、一般公開している。また、茶室「春眺庵」は茶道の心と趣味などの語らいの場としている。

資料は、民俗服飾〔文献類・実物（まつり・在来型作業着など）〕。

衣に関する問い合わせは火曜日13時~17時。



窯のある広場・資料館



所在地 〒479 常滑市奥栄町1-47

(株)INAX常滑東工場内

電話 (0569) 34-6858

交通 名鉄常滑駅下車 知多半田行きバスにて 常滑東口窯のある広場下車 徒歩約2分

沿革 窯のある広場・資料館には(株)INAXが文化活動の一環として昭和61年に創設したものである。所在地常滑は古くから焼物の町として栄え多くの窯が活躍していた。今は使われなくなった単窯を中心に常滑の古き良き時代を偲ばせる空間づくりを行った。

施設 敷地 2,700m²

木造 2階建 延面積 730m²

建坪 380m²

木造 平屋建ショールーム 255m²

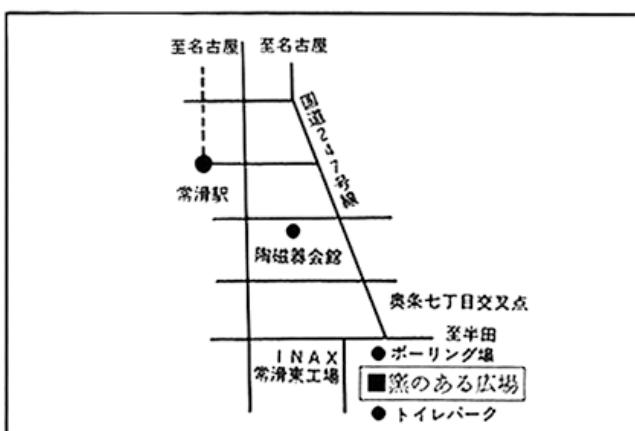
開館 10:00~17:00 (但し入館は16:30まで)

休館日 年末年始 旧盆

入館料 無料

特色 広場の中心をなす資料館内部の窯は、「単窯」と呼ばれ昔土管を焼いた大窯である。間口5.5m 高さ3.4m 奥行11m 床面60m²のレンガ造りで、その内壁はレンガが鉛色にかがやき見事なオブジェとして見る者を圧倒する。ひっそりと静まりかえる窯内は音響効果にもすぐれ、お琴や尺八等のコンサートも開催されることがある。窯の周辺や2階展示場には資料館が収蔵するテラコッタを展示している。テラコッタはかつて建築の装飾の一部と

して窓廻りや軒廻りなどを飾っていた。旧朝日生命ランタンをはじめ多くの陶製のアクセサリーは観る人の心にかすかな郷愁をもたらすでしょう。どうぞゆっくりご覧下さい。



名志苑美術館



所在地 〒440 豊橋市多米東町2-25-15

電話 (0532) 61-2111

交通 バス 豊橋駅より岩田団地赤岩線
柳原団地下車 徒歩10分

沿革 昭和61年11月開館

題名 (生と死)

(有)庭園レストラン名志苑社長小林敏一が長年に亘って集めた平安、鎌倉、室町時代の刀剣、武具等、そして深き日本の心を絵筆によって表現しつづけた人、又あの有名な江戸川乱歩の押絵を書きつづけ裸婦の名人といわれている、吉沢岩美先生の名作等を、私藏することなく、広く一般の方々にもご覧頂くため開放しています。

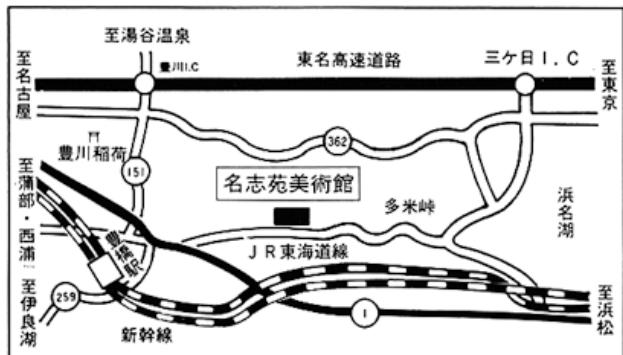
施設 鉄筋コンクリート2階建 延1,200m²

展示室2階 2室500m²

1階 ロビー、喫茶、土産品コーナー

開館 11:00~16:00

年中無休
入館料 (税別) 600円 一般入場
500円 御食事共入場



お知らせ

当協会では平成2年度の部門別研修会を下記の如く開催致します。加盟館(園)各位の奮ってのご参加をお願いします。詳細は各館(園)宛に通知致します。

I 自然科学部門研修会

1. 日時

平成3年2月7日(木) 午前10時~午後4時

2. 会場

日本モンキーセンター(さるの学習ひろばホール)
〒484 犬山市大字犬山字官林26
(TEL 0568-61-2327)

3. 日程

9時30分 受付

10時~12時 「愛知県内の哺乳動物の問題を考える―特にニホンザル、ネズミ類」
講師 金森正臣氏(愛知教育大学教授)
県内に生息する哺乳動物の現状について
ニホンザル、ネズミを中心として考える。

12時~13時 昼食 (各自で行う)

13時~15時 「博物館の調査活動における市民参加―平塚市カエル調査を例として」
講師 浜口哲一氏(平塚市博物館学芸員)
平塚市民から調査協力者を募って分布調査を行った。その意義や方法について紹介をする。

15時~16時 見学(希望者)

4. 参加費 無料

5. その他

(1)参加希望者は平成3年1月25日(金)までに日本モンキーセンター水野氏へ申し込んで下さい。

(2)昼食は各自で行う。

(4)参加の際は開催通知文書を入園係員に提示。

II 美術部門研修会

1. 日時

平成3年3月1日(金) 午前10時30分~午後4時30分

2. 会場

昭和美術館 〒466 名古屋市昭和区汐見町4-1
(TEL 052-832-5851)

3. 日程

10時 受付

10時30分~12時 「世界に発言する日本美術」

講師 中村英樹氏(名古屋造形芸術短期大学教授)

日本文化財と現代の美術を対比し、芸術創造のこれからを平易な言葉で考える。

12時~13時 昼食

13時~14時30分 「話し方について」

講師 矢橋 昇氏(元東海ラジオキャスター)

話し方の上達のポイント、言葉選び、条件、敬語、話の切り口等を説明する。

14時45分~16時20分 「光源について」「美術館の展示照明について」

講師 大野幸男氏(株日立製作所青梅工場設計部主任技師)

光源の種類、色温度、演色性、エネルギー分布、特徴、用語について説明する。

4. 定員 50人

5. その他

(1)昼食代実費として1人1,200円を当日徴収します。

(2)参加希望者は平成3年2月22日(金)まで昭和美術館服部氏まで申し込んで下さい。

「愛知の博物館」No.52

発行日 平成3年1月10日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

TEL <0561> 84-7474

FAX <0561> 84-4932